

我が町の協力隊

～協力隊になるまで編～

佐野 祥さん

前住所：浜松市東区
現在 33 歳

現在

森町に来ることを決めた際に「地域おこし協力隊」の存在を知り、応募。2021 年 4 月から委嘱される。下記のほか、敷地内にゲストハウスと交流拠点のリノベーション中。

活動テーマ

地域資源を活用した里山の賑わい創出コーディネーター

活動内容

里山や文化財の景観保全

地域資源を活用したイベントやワークショップ企画



きっかけの東日本大震災

「有事の際に人を守れない、生活できない」ことにショックを受ける。衣・食・住が自分の手元にないと感じる。昔の人がどのように衣食住を手に入れていたのかに関心を抱く。

社会人（メーカー勤務）

ものづくりに関わりたくて入社。入ってみると「大量生産」「売り上げ重視」のものづくり。考え方が合う人に出会えず苦しむ。自分のやりたいものづくりとは異なると気づき、退社を決意。

2 年間の海外放浪

伝統を大切にしながら、新しいことに取り組む場所を訪れたいと思い、パートナーとともに衣食住をめぐる旅へ。各国の「食」について知るために農家の元を訪れるなどした。

縁あって森町へ

自然に寄り添う暮らし＝大変・節制ではなく「楽しいことも多い暮らし」と伝えたい。それを体現できる場所を作り出したいと考えていたとき、親族に「森においで」と声をかけられる。

自分を作った大学時代

国際協力に関心を抱いて入学。様々な国の留学生と出会う。「どうしたら平和になれるのか」と常に考えていた学生時代。

9 か月のフリータイムの中で

卒業後、入社まで 9 か月ほど時間があつたため、インド・ネパール・沖縄を旅する。さまざまな経験を経て 180 度考え方が変わる転換点になる。

自分のものづくりのため、沖縄へ

伝統工芸の仕事に就くために沖縄へ移住。1 年間、織子になるための研修を受ける。「伝統は刷新だ」という言葉に感銘を受け、これからの伝統の在り方について考える。

3 年間の暮らしの中で

旅を終え、再び沖縄へ。様々な国を巡り、「循環できる暮らし」をしたいと考える。また、そろそろ自分たちの考えをアウトプットするための場をもちたいと思い始める。

現在へ

森町地域おこし協力隊新聞



令和 4 年（2022 年）

7 月号

メンバー紹介

地域おこし協力隊

佐野 祥

横山 春人

松葉 知香（ハチカ）

移住コーディネーター

岩瀬進哉

森町役場

定住推進課



6 月の活動報告

佐野

■田んぼ関連

草刈り、田植え、獣対策

■ゲストハウス関連

周辺メンテナンス

■ワークショップ

初心者向け梅仕事

横山

■空き家の調査

本町、城下地域

■地域の環境整備

竹刈り、草刈り

■田んぼ関連

黒米の田植え、草取り、水源整備

■農林大学生課外授業活動の体験

■住まいの改修工事

松葉

■田んぼ手伝い

■商品開発関連

とうもろこし加工品準備、クラフトビール準備（仕込み手伝い、ラベル貼り、瓶詰めなど）

■広報関連

森町地域おこし協力隊新聞編集作業、インタビュー

岩瀬

■移住定住相談

ヒアリング、内見など

■空き家の調査

本町、城下地域

■空き家利活用推進

旧レコード店改修

■関係人口創出

半夏生支援、棚田交流会ブルーベリー商品開発

僕と空き家

移住コーディネーターと空き家の話

「家賃2万円」。

これは森町で借りているアパートの金額ではない。僕が二十年前ほど前に東京で住んでいた一軒家の部屋の家賃だ。場所はセレブも多く住む世田谷区で、部屋の広さは4畳半。キッチンもトイレも入居者が共同で使用し、風呂は付いていなかった。でも歩けば1分で銭湯があり、夜中の0時までやっているので風呂がなくても全く問題はなかった。

何故、大都会東京でそんな家に住んでいたのか。それは僕の意志で選んだのではなく、大学時代に入っていたサークルで代々住み継がれている「木村家」という一軒家で共同生活をしてきたからだ。

そこは、今というシェアハウスみたいなもので、部屋にも玄関にも鍵は付いていなかった。そして家に帰ると常に誰かがいるような毎日。一度も会ったことのない人が帰ったら部屋にいるなんてこともしょっちゅうだった。そんな毎日が楽しかった。

僕が通っていた農業大学は、全国から農業に可能性を見出した、世間からは浮世離れした学生が集まるような大学だった。田舎者の僕が勇気を出して飛び出した東京で、まさか家賃2万円の物件に住むとは自分でも思ってもみなかった。

古びた柱、黄ばんだ漆喰の壁、傷んだ畳。周りのみんなが住んでいる家賃6万円、7万円する部屋とはだいぶ違うが、僕はそんな部屋が好きになった。そこから建築の仕事を経て、今は森町で空き家を活用する仕事をしているのも、全てはその一軒家「木村家」に住んだことがきっかけになっていると、今になってそう思う。

岩瀬進哉（イワセシンヤ）・森町移住コーディネーター

地域おこし協力隊OB。現在はゲストハウス森と町管理人。

一般社団法人「モリマチリノベーション」で空き家の利活用

やまづくりに取り組み。



協力隊の貼り紙

作・絵
よこやまはると
横山 春人

早いもので、この7月で森町に移住し1年がたちました。空き家の調査で色々な地域を巡らせてもらい、色々な方の移住の相談に一緒に、き、地域の行事や環境整備、お米作りや田んぼの学び場作り、テレビの取材、お店作りのお手伝い、住まいの改修... などなど。もう思い出せないくらい色々な経験と、たくさんの方との出会い、温かさ恵まれやってこれた1年でした。これから2年生。まだまだひよっこですが、家族ともどもよろしくお願いします！

地域おこし協力隊とは？

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。隊員は各自治体の委嘱を受け、任期は概ね1年以上、3年未満です。

連絡窓口のご案内

森町役場（定住推進課）

☎ 0538-85-6321

